

## 城東学園新たな学園づくり地域説明会 主な御意見・御質問

日 時 場 所	平成31年3月16日（土）13:30～16:00 大東北公民館
出 席	地域住民 合計 68人（検討委員含む） 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学校教育課長、企画政策課長 学校教育課主席指導主事、指導主事、教育政策室長 教育政策室係長、指導主事、主任

### 1 小中一貫教育について

①平成30年度の佐東地区の地区集会の案内が回覧板で回ってきた。小中一貫教育は学校教育の面で進めており、平成29年度から31年度の期間で実施中である。学校統合という話ではない、と明確に書いてあった。隣接型や一体型というのは、統合ということではないか。【佐東の方】

-- <教育長の回答> -----

- ・学校統廃合の話ではないかという御意見について、統廃合ありきで小中一貫教育を進めているわけではない。
- ・地域からすると、再編で通う学校が変わる、なくなってしまうことの寂しさということは私もよく分かっているので、統廃合ということが進むのであれば、きちんと地域、保護者の方に説明をしていかななくてはいけない。小中一体校として1校にまとまるのであれば、見方として統廃合と言われればそのとおりのかもしれないが、新しい学校、新しい太陽となる施設を作るという部分について、しっかりと地域の皆さんの声を聞きながら、財政的な面から市長部局とも協議をしながら進めていきたい。学校を作るということになったとしても最短でも5年はかかる。小学校がなくなるとは困るという地域の方の御意見が強いのであれば、またじっくり話しをしていくことになるので、さらに時間を要することになる。
- ・今後も施設を新たに作るということになれば、皆さんの声を聞きながら進めていく、ということも御理解いただきたい。

②なぜ小中一貫教育でなくてはならないのか。なぜ小中一貫教育の方が優れているのか。なぜソフト面が小中一貫教育でなければならないのか。【佐東の方】

-- <事務局の回答> -----

- ・平成28年度に学園化構想第2ステージ検討委員会という外部委員会を立ち上げて、学園化構想の次の段階としてどのような教育を行っていったらよいか、ということを検討していただいた。その中で小中一貫教育の必要性が打ち出された。いろいろな方からの御意見を伺いながら、掛川市では小中一貫教育を推進していく。

③小学校の子どもたちに、小中一貫教育のアンケートをとったら、小学校6年の最上級

生を経験することで子どもたちに自信がつくそうだが、中学生といつも一緒にいることで、阻害要因になると思う。そういうアンケート結果が出ている。【佐東の方】

-- <事務局の回答> -----

- ・小学校高学年においてリーダー性を発揮する場を設定するというのはひじょうに重要なところであり、小中一貫教育を進める中で、仮に一体型の学校となった場合でも、それぞれの区切りの中でリーダー性を高めていけるのではないかと考えている。一体校になったらリーダー性が絶対養われない、ということではなく、その中でリーダー性を発揮する場を教員が作っていく、そこで成長していける、そういうことが大切ではないかと考えている。

④保幼小中連携をさらにステップアップをするために一貫教育を行うというのは分かるが、学校まで一体化してしまう必要があるのかどうか疑問を感じる。連携というのは、園、学校それぞれの中で教育課題があり、それに取り組んでいく。それをより効果的にするためにお互いに連携することは大事だと思う。小学校は小学校、中学校は中学校の課題がある。これを1つにしてしまうことが良いことなのかどうか。一貫校についての成果と課題、デメリットについてもどれだけ市教委として検討しているのか。  
【大坂の方】

-- <事務局の回答> -----

- ・一貫教育の成果と課題については、国の調査では、大きな成果が認められると答えた学校が23%、成果が認められると答えた学校が76%、あわせると99%の学校が小中一貫校にして成果が出たと答えている。授業が理解できると答えた児童・生徒が増えた、子どもたちの学習意欲が向上した、学習習慣の定着が進んだ、学習規律・生活規律の定着が進んだ、児童・生徒の学校生活への満足度が高まった、子どもが落ち着いた、上級生が下級生の手本になろうとする意識が高まった、中1ギャップが緩和された等の成果がある。教職員の小中学校の指導の系統性について理解が深まった、小中学校の教職員の互いの良さを取り入れようとする意識が高まったなど、たくさん挙げられている。
- ・一方、課題があると答えているのは全体の50%くらいある。内容としては、9年間の系統性に配慮した指導計画の作成と教材の開発が難しい、年間行事予定の調整や共通化が難しい、児童・生徒間の交流を図る際に移動時間がかかる、小中の先生同士の打ち合わせ時間を確保することが難しい、これらは施設分離型の学校のことだと思われるが、小中一貫教育は新しい取組であるため教員が多忙になるなどの課題があげられている。こういったことも踏まえて検討委員会で検討していただき、今回の報告をいただいたと考えている。

## 2 適正規模・適正配置について

①小さい学校だと人間関係が固定化されるとか、学級編成ができないとか言われているが、佐東小も中小も土方小も1学年20名くらい、私はそのくらいの規模の方が、子

どもと接する時間も長くなるし、それぞれの子どもの活躍する場も多くなる。小規模校って本当に良いと思っている。掛川市内の学校の学力調査結果とか運動能力の結果、学校に行けない子どもの数等、そうしたものが規模によって、小規模校の方が問題のある子が多いとか、大規模校はこうだという資料、データが示されていない。そういうデータがなく、小規模校では学級編成ができないとか、切磋琢磨できないと言われるが、本当にそうであればどういう根拠があって言うのか明らかにしていただきたいと思う。【大坂の方】

-- <事務局の回答> -----

- ・国では1学年2学級から3学級の学校が適正な規模としている。できれば、複数学級ある中で多く子どもたちと関われるような環境を作っていきたいと考えている。
- ・小規模校の教育について、教員はいろいろな規模の学校に勤務する中で、小規模校の子どもたちに社会性とか、主体性等が若干弱いのではないかと経験則で感じている。だからこそ、いかにそれらを補っていくのかをそれぞれの学校で教員が知恵を絞って取り組んでいる。多くの教員からクラス替えができる複数学級の規模の学校で子どもたちが生活できることが望ましい、という意見もいただいている。第2ステージ検討委員会においても、複数学級の中で子どもたちがいろいろな関わりを持つことが必要ではないかという検討もなされてきた。
- ・小規模な学校と大規模な学校のメリットとデメリットについても検討委員会で検討していただいた。学習面で言えば、小規模であれば1人1人に目が届きやすくなり細かな指導を行いやすいというメリットが考えられる。逆に、集団の中で多様な意見に触れる機会が少ない、切磋琢磨する機会が少なくなってくるというデメリットが考えられる。
- ・大規模校においては、集団の中で多様な考えに触れたり、認め合ったり、協力しあったりということができやすい。ただ、全教職員による1人1人の子どもの把握が小規模校に比べると難しくなるという面もある。

②小規模校では人間関係が固定される、切磋琢磨がされにくいというが、僕のいた学校は団塊の世代であったので1クラス55人いて9クラスもあってマンモス校と言われていたが、人が多すぎて人間関係が作れない、自分のクラスの何人かしか知らない、卒業してから同じ学校の同級生だったことが時々分かることがあるが、大きくなりすぎると弊害が出る。【佐東の方】

-- <事務局の回答> -----

- ・あまりに大規模な学校は教育に弊害があるという御意見については、私たちも当然そのように考えている。今、標準としては12学級から18学級が標準規模とされている。12学級というのは小学校では1学年最低2クラスあって、クラス替えができて、いろいろな刺激を受けられる、コミュニケーション能力や社会性を養うことができる適正な規模が2クラスぐらい。教育委員会としては、決して、学校を統合して規模を大きくすることがよいとは考えていない。

③全市一体的に学校再編の問題を考えていかないと、西中学校区は人が多いからではなく、そうしたら西中学校区を2つに分ければよいのであって、もう一度全市的に学校再編の問題を考え、不公平がないようにできるだけ学校から遠い地域の世帯が安心し

て子育てできるような、納得をいくことをやってこそ、掛川市が住みよい街になると思う。【佐東の方】

-- <事務局の回答> -----

- ・全市的に学校再編の検討を進めていくべきではないか、という御意見について、教育委員会としては来年度、全市的な学校の再編、配置の在り方について考えていかなくはないかと思っている。

④学校に行けない子どもというのが1つ大きな問題になってくるが、そうした子どもの割合は学校規模によって相関性があるのかなのか、掛川市は学力テストの結果がたいへん良いというが、それが小規模校と大規模校との間に格差があるのか、ないのかについてもちゃんと出して欲しい。【大坂の方】

-- <事務局の回答> -----

- ・学校規模による学力の優劣、不登校の割合については学校規模との相関関係はないと考えている。城東学園の子どもの学力が劣っているというわけではない

⑤大浜中と城東中とくっつけて、旧大東町の5校をすべてくっつけて教育をすれば、その方がよほど将来的にもよいのではないか。人口の推計を見ると、後20年もたてばまた校舎をどうのこうのという議論が再度出てくると思う。【土方の方】

-- <事務局の回答> -----

- ・合併前に中学校1校、小学校2校にするという計画があったが、現在の掛川市ではそのような方向性は持っていない。
- ・平成29年6月に策定した小中一貫教育推進基本方針の中で、新たな学園づくりは学園を基本にしてということ考えていたので、城東学園では城東学園の中でということで、その中で小中一貫教育を行うのにふさわしい、最適な学校施設のあり方を考えてきた。先ほど御意見いただいたことについては、検討委員会にも報告をして、城東中学校と大浜中学校を1つにして、小学校を2つにという意見については検討委員会にお伝えをして、検討をしていただいた。
- ・城東学園の中で検討するということになったので、城東学園の中でどうするのかということ課題として検討を行っていただいた。

### 3 地域について

①もし一体型か隣接型になった時に学校がどこにできるか分からないが、学校がなくなった地域がどうなるかと言うと、子どもの数はもっと減る。それは当然だと思う。そこで誰が草刈りをするのか、お年寄りの世話をするのか、誰がその地域を維持していくのか、役員のなり手も含めて、そう言った起きるであろう問題に真剣に考えて、そこまで考えて納得いく結論が出ると思う。【佐東の方】

-- <事務局の回答> -----

- この事業が進んでいった場合に、地域から小学校がなくなることについて、地域の課題についてどう考えるのかということだが、小学校が地域にとってひじょうに大切な施設であるということは十分認識している。もし今後、検討委員会から報告のあった小中一体型の学校を整備していくことになったとしたら、当然小学校がなくなる地域も出てくるが、その後の地域づくりについては、全市をあげてその地域のいろいろな方面から、どんな新しいまちづくりが考えられるのかということを検討していく。
- 学校がなくなれば子どもがいなくなるという話について、10年くらい前に原泉小学校が統合されたが、若いお父さんお母さん方は、クラスの人数が2人とか3人になると子どもの教育に不安があって、このままでは原泉地区には住めないと言っていた。その後、原泉小学校は西郷小学校と一緒にになり、バスで通学できるようになった。そうしたら原泉地区から出ていった人が帰ってきた。ある程度の規模の学校に原泉から通えるのであれば、原泉地区に住むということに戻ってきた人がいる。
- 他市の小中一貫教育を実施しているところの話を聞くと、2クラスになってクラス替えができるような学校になるのであれば、小中一貫校になればそこに住みたいという保護者もいるということを知っている。地域によって成り行きはいろいろあると思うが、そういった話もある。その後の地域づくりで住みよい地域になれば、多くの方に住んでいただけるようになると思われるし、小学校がなくなれば子どもがいなくなるとか、若い世帯がいなくなる、ということではないと考えている。今後のまちづくり、地域づくりが大きく関係してくるのではないと思う。

## 4 検討委員会について

- ①検討委員会のメンバーについては、区長さんや保育園の園長さんだとか回覧された通知に書いてあった。確かに一般的には識者と言われる人だとは思いますが、ごく1人のお母さんの意見、1軒1軒そういうところで話をすれば、みんなが不安を持っている。そういう不安が、この多面的な意見の中には入っているのか。そういう不安の要素、不安に感じている意見、そう言ったことがこの資料の中には1つも入っていない。そういう意見も両方並べて、確かによい面もあるかもしれないが、だけれどもそういう不安に答えるのが教育委員会、市の行政に携わる人たちの仕事ではないか。【佐東の方】

-- <事務局の回答> -----

- 報告書は、毎回の検討委員会の中でどのようなことが話し合われて、どんな結論になったのかと言うことを記載させていただいている。施設のことについても、メリット、デメリットの両方をあげて行く中で、検討委員の皆さんにはグループ協議の中でたくさん意見を出していただき、全体で総括してということをお願いしてきた。一人一人意見が違う中で、お互いの意見をぶつけ合いながら、最終的には全員が納得というわけではないが、ほとんどの方が今日お話をいただいた提言の内容にまとまってきた。最終的には、このような形で大枠として検討委員会としてまとめていただいた。

②第2回の検討委員会の議事録を見てびっくりしたのは、意見交換会で出た意見について、反対の意見が多く、感情的に反対している人が多い、という意見が複数の委員から出ている。それには驚いている。あの時、私も含めて数名の方が質問をしている。私は反対、賛成関係なく疑問があった。他にも疑問がある方がいて、疑問を聞いていたのに、反対や感情論ということで、そこで出た疑問に対して、検討委員がどう答えるのかという話になっていない。これはひじょうに問題だと私は思う。【佐東の方】

-- <事務局の回答> -----

- この中にも意見交換会に参加された方もいらっしゃると思うが、ひじょうに激しいやり取りで、教育長も満足に回答できないくらいたくさんのお意見をいただいた実情もある。そう言ったやり取りの中で検討委員さんが、御質問された方が感情的になっているのではないかと感じられたことはある意味致し方がないことかと思う。そういうふうに聞き取れてしまったということで御理解をいただきたいと思う。

③土方の区長会でこの城東学園の検討委員会の検討状況の話は一度も聞いたことがない。中身についての話しは一度も聞いたことがない。その中で皆さんが主体になってどんどん方向性を作っていただけで、それではいくら意見を言ったとしても、聞く耳をまったくもっていないということではないのか。今日の意見をもう一度持ち帰って、すべての点について原点から見直してご案内をさしあげるといふうにしなければ皆さん納得しないと思う。【佐東の方】

-- <検討委員の回答> -----

- 検討委員は何をしていたんだという言い方をされたが、検討委員も、教育長もいろいろなことを言った。ちょっとつらいことも言ったし、委員長にも言った。城東学園だけでなく、大浜も含めた大東学園の構想についても言った。各委員いろいろな意見を言った。私も地域に帰っていろいろな人に話をして、その意見を少しずつでも会で言った。いろいろな意見があって、全部納得ではない人もいるかもしれないが、一応今回まとめて、まとめるにあたって検討委員の意見も聞いたし、できるだけ良い方向になるように一体化という方向性を出した。いろいろな意見があると思うが、一応まとめた、検討委員も言うことは言ったということだけは承知してほしい。検討委員は何をしていたのかと言われるが決して黙っていたわけではないし、みんな発言をしたのだから理解をして欲しい。

④検討委員会の努力がたいへんだっただであろうことは、個人的には十分承知している。検討委員会の方がどうのこうのということは一切言っていない。検討委員会の方も十分納得できていない方もあり、区長会の中でもそんな意見が出たことはない、組長会でも議論になったことは一度もない。これが実態だと申し上げている。検討委員会の方が満足のいく内容となっているのか、検討委員会の総意なのかも疑問を持たざるを得ない。【土方の方】

-- <検討委員の回答> -----

- 検討委員会の委員長を務めさせていただいた。この検討委員会は地域の代表の皆さん、

特にPTAの保護者代表が8人、乳幼児を持つ保護者代表が3人、地域コーディネーターが4人と三分の一を超える方がそういうメンバーに、若い方が入っている。私としては、粛々と教育委員会の指導を受けながら形式的に行うつもりはさらさらなく、それよりもむしろ分からないことは分からないと率直に出していただく、発言も思ったことをどんどん出していただく、ということで、特に前半の4回まではグループ協議をたいへん重視してきた。そういう中で皆さんの考えを出していただいた。

- 答えありきではなく、できるだけ多面的に、それぞれの立場で精一杯考えて、その根幹にあるのは城東学園内の子どもたちの将来にとってどういう形が望ましいのか、今の掛川市の小中一貫教育を牽引している城東学園をいかに推進していくのか、そんな考えを持ちながら、最終的にこのような形で提言をさせていただいた。
  - この8回精一杯考えてきた中で、このような形でまとめさせていただいたということで御理解いただきたい。
- 

## 5 その他

- ①私は城東中学校区ではないが、なぜ城東中学校区でないと発言できないのか。掛川市民で教育の問題について、小中一貫教育はモデル校として城東中学校区で始めたが、全市的に行うということは他の地区にも影響がある。なぜ私は発言ができないのか。  
【地区外の方】

-- <事務局の回答> -----

- 本日の説明会は、あくまでも城東地区の皆様向けの説明会であり、城東地区の皆様からの御意見を伺いたい。いろいろな地区の方から御意見を伺うと時間もなくなってしまっているので、城東地区の方から御意見を伺いたい。
  - 佐東、中、土方の学校関係者の方、地域の方がたくさんいらっしゃっていただいているので、その方々の御意見を優先的に、尚且つ時間があれば、後でもお話しを聞かせていただきたいと思います。市民の声ということでお聞きしたいと思っている。
-